

実は、調整の途中でも退院してきていい!

大切なタイミングを逃さないこと

外出や退院希望があれば一声かけてあげること

これは入院中の医療関係者にしかできない

- ・点滴は一日1,000mlまで
- ・抗生剤などは2回投与まで
- ・酸素は切れなくてもOK



実は、思い出づくりのお手伝いもできる!

- ・「自費訪問看護」という利用方法
- ・旅行支援、お花見、冠婚葬祭への出席など

今回ご紹介するのは、「実は、調整の途中でも退院してきていい!」、「実は、思い出づくりのお手伝いもできる!」ということです。

退院に向けて本人・家族や在宅スタッフと周到に準備を進めることは必要ですが、「大切なタイミングを逃さないこと!」は我々が常に意識しないとイケません。これからの治療経過を予測し、外出や退院希望があれば一声かけてあげることが大切です。これは入院中の医療関係者にしかできないことです。

大事な話は詰めきれないものですし、十分な在宅療養指導よりも大切なものがあります。現実的には、再入院を受けてくれる前提で（病棟が変わるのは仕方ありません）、点滴は1,000mlまで、抗生剤は2回投与まで、酸素は付けたままで退院して、訪問看護に引き継いでください。病棟に余裕があれば、退院後訪問をぜひご検討ください。特別訪問看護指示書があれば、連日訪問、場合によっては短期間なら1日2回の訪問でサポートすることもできます。

また、訪問看護の利用であまり知られていないのが、「自費訪問看護」という利用方法です。重い障がいをもって、病気が進んだ状態でも本人・家族にとって「大切なイベント」は必ずあります。入院中の関わりのなかで、ふと出る「患者さんの思い」に触れる機会があるかと思えます。その際には、ぜひ今回の知識を思い出してください。訪問看護ステーションによってできる対応には違いはありますが、胃ろう投与や喀痰吸引などの処置、状態が不安定な方の看護を、旅行中、お花見、冠婚葬祭に同行してサポートしてもらえます。

実は、訪問看護は必要な方に利用できるようになっていっていますので、「たしか訪問看護、こういう利用ができるんじゃないかな?」とまずは医師や看護師やソーシャルワーカーなど、関係者で話をしてみることが大切です。